

第29話 葉月：「仲間とつながった4日間」

8月18日～21日に、5年生が国立江田島青少年交流の家で3泊4日の野外活動を行いました。今年の野外活動のテーマは「仲間とつながれ！チーム5年～みんなと成長～」です。そのために、教職員も子どもたちも、「海田小学校の子どもたちのよさは何か」「さらに成長するための課題は何か」について、じっくりと考えたうえで、次の3点を強く意識して活動に臨みました。

- 1 仲間の意見を聞こう。
- 2 自分の意見を上手に仲間に伝えよう。
- 3 お互いのよいところを認め合おう。



初日の出発式では、親元から離れて生活することに不安な表情を浮かべていた児童が多くいたようですが、天候にも恵まれ、野外炊事、カッター研修、人間関係プログラム、水晶山登山、キャンプファイヤー等といった活動を体験することにより、自らに対する自信と安心感をもてるようになりました。その大きな要因となったのは、自分のことを理解してくれる班の仲間の存在でした。



今年は、例年より活動を少なくした分、ふり返りの時間を十分確保することができました。自分で設定した目標に対するふり返りや、「つながれポイント」と名づけた先述の3点、そして班のメンバーのよいところをたっぷりと書くことができました。それを両手で手渡すときのドキドキ感、コメントを読むときのワクワク感などが、傍で見ていたわたしたちに伝わってきて、とても心地よい時間が流れていきました。

今年、例年より活動を少なくした分、ふり返りの時間を十分確保することができました。自分で設定した目標に対するふり返りや、「つながれポイント」と名づけた先述の3点、そして班のメンバーのよいところをたっぷりと書くことができました。それを両手で手渡すときのドキドキ感、コメントを読むときのワクワク感などが、傍で見ていたわたしたちに伝わってきて、とても心地よい時間が流れていきました。



3日めのキャンプファイヤーでは、班長を中心に、自分の意見を伝え、仲間の意見を聞きながらスタンツの練習を行った成果を発揮し、制限時間の中で、自分たちが納得のいくパフォーマンスを披露することができたようで、大変盛り上がりました。



子どもたちは、自然と触れ合いながら、生きることの尊さを実感し、仲間とつながることの喜びや、各活動においてやりきったという満足感を味わうことができました。そうした成長の証を最終日の食堂でトレーをもって整然と並ぶ児童の様子から垣間見ることができました。来年度、海田小学校を背負っていく子どもたちにとって、仲間とつながった4日間は大変貴重なものとなりました。

校長 寺岡 成希